

## 実践のまとめ（第6学年 社会科）

南魚沼市立三用小学校 教諭 平川 舞央

### 1 研究テーマ

#### 社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に課題を追究する力の育成 ～学習計画を立てる活動を通して～

### 2 研究テーマについて

#### (1) テーマ設定の意図

学習指導要領、社会科の目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を養う」「社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。」とある。学習指導要領にもあるように、社会的事象に対して、主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的に考え、仲間と協働しながら課題を追究したり解決したりする力を鍛えることが、これから生きる児童には大切である。

しかし、これまで授業では、「先生、今日何をやりますか？」と児童から聞かれることがたびたびあった。当学級の児童が「授業は、教師主導で行われるもの」という認識をもっていることが分かり、「自分たちで主体的に学びを追究していく時間と捉えていない」ということを痛感した。私自身、授業が児童にとって“わかる”“わかりやすい”という点に焦点を当て、動画コンテンツを活用したり、資料の説明をしたりしてきた。しかし、その結果として、児童自身が課題を追究したり解決しようとしなくなったり、学習に臨む姿勢が受け身になったりする姿が見られる。

そこで、本実践を通して、教科書や資料集を読んだりノートを書いたりする活動も教師の指示に従って行うだけでなく、自ら教科書や資料集を使って調べたり、ノートに書き込んだりする姿を期待したい。教師から示される内容だけを受け取るのではなく、自分たちで学び進めていく力を養いたい。

学習指導要領をふまえ、児童が主体的に問いを追究し、社会的な見方・考え方を働かせながら学習を進める力を養うことが大切だと感じ、本研究テーマを設定した。

#### (2) 研究テーマに迫るために

##### ① 資料を効果的に活用し、単元を貫く問いを設定する

資料や映像を基に、児童のつぶやきを拾い、クラス全体で単元を貫く問いを設定する。その際、単元の学習内容に即した資料を精選し、「なぜ」「どうして」といった驚きや疑問を大切にしていく。

##### ② 学習計画を立てる活動

問いに対する予想を基に、「何を」「なぜ」調べるのかを明確にする。年表や教科書、資料集を活用して出来事を整理し、見出しを付けてグルーピングすることで、児童自身が学習内容を見いだせるよう支援する。

このように学習計画を立てる時間を確保することで、児童は見通しをもち、その後の学習を主体的に追究していくことができる考える。

### (3) 研究テーマに関わる評価

研究テーマに迫る手立てが有効か検証するために、アンケートで検証を行う。

- ・「社会科の学習で、自ら教科書や資料集を開いて調べているか。(実践の前後で検証)
- ・単元の最初に課題をつくったり計画を立てたりすることは、その後の学習にどのようなつながったか。(実践の後でアンケートをとる)

## 3 単元と指導計画

### (1) 単元名

幕府の政治と人々の暮らし (小学6年 教育出版)

### (2) 単元(題材)の目標

- ・武士による政治が安定したことについて理解するとともに、絵画資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べる技能を身につけるようにする。
- ・江戸幕府の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- ・江戸幕府の政治について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。

### (3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画資料や文化財、地図帳や地球儀、年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、参勤交代や身分制度、鎖国などの幕府の政策について理解している。</li> <li>・調べたことを年表や図表などにまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制度について考え、表現している。</li> <li>・参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制度を関連づけたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸幕府の政治について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習課題を追究し、解決しようとしている。</li> </ul>

#### (4) 単元の指導計画と評価計画（全7時間、本時2／7時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1次 (2) つ か む	・資料から江戸幕府が長く安定して続いていたことを捉える。	◎資料から他の時代と江戸時代を比べ、単元を貫く問いを考えよう。	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 資料から気づいたことを挙げ、何を追究するか考えようとしている。
江戸時代は、なぜ支配体制が長く続いたのか。⇒幕府はどんな政策を行ったのか。			
本 時	・学習課題に対する予想を立て、学習計画を立てる。	◎問いに対する予想を出し合い、学習計画を立てよう。	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 既習事項を生かして、学習課題の予想を立てたり、何を調べる必要があるか計画を立てたりしている。 【発言・ノート】
2次 (3) 調 べ る	・江戸幕府の大名支配の仕組みを捉える。 ・江戸幕府の民衆の支配の仕組みを捉える。 ・江戸幕府が外国とどのように関わっていたのか捉える。	◎江戸幕府は、どうやって大名を支配したのか。 ◎江戸幕府は、どうやって民衆を支配したのか。 ◎江戸幕府は、外国とどのように関わっていたのだろうか。	<b>知識・技能</b> 江戸幕府がどのように大名を支配したのか理解している。 【発言・ノート】 <b>知識・技能</b> 江戸幕府がどのように民衆を支配していたのか理解している。 【発言・ノート】 <b>知識・技能</b> 江戸幕府が外国とどのように交流をしたのか理解している。 【発言・ノート】
3次 (2) 深 め る	・江戸幕府が長く続いていたのはなぜか考える。 ・テスト、振り返り	◎江戸幕府が長く続いた理由を徳川家康にプレゼンしよう。 ◎テストと単元の振り返りをしよう。	<b>思考・判断・表現</b> なぜ江戸幕府が長く続いたのかそれぞれの政策の良さを多角的に考えている。 【発表・ノート】 <b>知識・理解/思考・判断・表現</b> 本単元の学習到達度をはかる。 【テスト】

#### 4 単元（題材）と児童

##### (1) 単元について

本単元は、江戸幕府の政治の安定について幕府の政策に着目して学習する単元である。本実践では、秀吉没後の年表、江戸幕府の歴代将軍、国内の争いの数の推移がわかる資料を提示する。児童の驚きや問題意識を引き出し「江戸時代が平和に長く続いたのかどうか。」や「江戸幕府はどんな取組を行ったのか。」、「江戸時代は、なぜ他の時代より長く幕府の支配体制が続いたのか。」など単元を貫く問いにつなげたい。また、その課題解決の

ために対して何を調べる必要があるのか、今後の学習計画を立てる。そうすることで、より主体的に学習に臨むことができると考える。

## (2) 児童の実態(男子8人 女子7人 計15人)

本学級で行った「社会科の授業が好きですか?」という質問アンケートにおいて、「好き」と回答した児童が9人、「まあ好き」と回答した児童が5人、「嫌い」と回答した児童が1人だった。また、児童は、授業中に気付いたことやおもしろいと思ったことを声に出し、全体に広めようとするなど、興味をもって学習に取り組んでいる様子がある。

歴史の学習では、ミライシードのオクリンクプラスを活用し、班ごとに問いを立て調べる活動を行ってきた。問いを立てたり、調べたりする活動を行うことで、自分から教科書や資料集、地図帳や国語辞典を開き、読んだり見返したり、またそれをノートに書き込んだりする様子が見られるようになった。

しかし、単元を貫く問いが班ごとに異なると、学級全体で学習を進めていく際に、班で立てた学習課題が形骸化してしまった。その結果、主体的に課題を追究する姿から離れてしまった。そこで、同じ資料を見ながら学級全体で問いを設定し、学習計画を立てる活動を設定したい。また、既習事項を活用し社会的な見方や考え方を働かせながら、主体的に課題を追究する姿を期待したい。

## 5 本時の展開

### (1) ねらい

問いに対する予想を出し合い、学習計画を立てる。

### (2) 展開の構想

本時は、単元を貫く問いを解決するために、どのように学習を進めていく必要があるのか、児童が学習計画を立てる時間である。児童自身で学習計画を立てることで、問題解決の見通しがもてるようになること、自分たちの学習という自覚と学習への責任をもつ等、主体的に解決に向かうようになることをねらう。

最初に前時の学習内容を想起させたあと、児童の「調べたい」という気持ちを引き出すために、追加資料として、江戸幕府15代将軍の資料を提示する。次に、江戸幕府がどのようにして長く平和な時代を築いたのか予想する。その際、「鎌倉時代のように、全国に守護、地頭を置いたのではないか。」「源頼朝のように御恩と奉公で武士を従えたのではないか。」「戦いが少ないから秀吉のように刀狩を行ったのではないだろうか。」など、既習事項を活用していけるように壁掲示にも着目するように促す。

その後に資料集の年表を開き、調べていきたいことを付箋に書いていく。今回は、江戸幕府の支配体制の基礎ができた3代将軍の頃までの年表を提示する。江戸幕府が行った政策を見て、その語句からどんな政策なのか予想し、「大名の支配」「人々の支配」「外国とのかかわり」の3つで仲間分けをする。予想が難しい場合には、資料集や教科書を使って調べるように促す。そして、これから何を調べていくと良いのか児童が見通しをもてるように支援する。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される児童（生徒）の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
5分	①前時の内容を想起する。	T 前回は、何をしましたか。 C 江戸幕府が他の時代より戦いが少ないことを知りました。 C 問いを立てました。	○単元を貫く問いを提示する。 ☆江戸時代は、なぜ支配体制が長く続いたのか。⇒江戸幕府はどんな政治を行ったのか。
◎問いに対して予想を出し合い、学習計画を立てよう。			
15分	②学習課題に対する予想を出し合う。	T 江戸幕府はどんな政策を行ったと思いますか。（予想） C 税金を下げる⇒国民の負担減 C 豊臣秀吉の刀狩を行う⇒ <b>農民</b> が反乱しないように。 C 織田信長の楽市楽座⇒商売が盛んになるようにした。 C 頼朝は御恩と奉公⇒領地を与えて <b>武士</b> を支配したよ。 C 武力を使ったと思うよ。	○これまで学習した時代の振り返りノートを掲示。 ◇既習や現在の政治の様子を生かしながら江戸幕府の取組をつかめるようにする。 ◇それぞれの政策について吟味する。
10分	③これから「調べること」を考え、話し合う。	T では、江戸幕府はどんな政策を行ったのでしょうか。年表を見てみましょう。 C なぜ海外の渡航・帰国を禁止したのか。⇒外国との関係。 C <b>武家</b> 諸法度とは何か。（武士に対して何か出したのではないか。）⇒武士の支配 C 島原・天草一揆がおきている。人々の生活はどうなっているのか。⇒人々の支配	○年表を拡大したものを提示する。 ◇用語や語句に着目しながら、どのような意図で行われたのかを予想するようにする。予想できない場合には、資料集や教科書を使って調べるように促す。
10分	④付箋に書いて発表する。内容を吟味する。	T 調べたいことを付箋に書きましょう。 C これは、外国のことだよ。	◇付箋は、オクリンクプラスを活用する。 ◇児童の短冊をグルーピングしていく。
5分	⑤学習計画を立てる。（次時への見通し）	T 学習計画を立てましょう。 <学習計画> ・大名への取り組み ・人々の支配への取り組み ・外国との関わり	□学習問題について、予想したり学習計画を立てたりして解決の見通しをもっている。【ノート・発言】

#### (4) 評価

評価方法 記述

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	世の中の様子、人物の動き、代表的な出来事に着目して計画を立てている。	江戸時代の学習に対して、既習事項を生かしながら予想や学習計画を立てようとしている。
B	資料から計画を立てている。	江戸時代の学習に対して、予想や学習計画を立てようとしている。
C	Bに満たない。	Bに満たない。

### 6 実践を振り返って

#### (1) 授業の実際

前時の内容を想起する場面では、「時代が長いけど、戦が少ない」「他の時代よりも平和だ」とこれまで学習した時代との違いについて話す姿が見られた。

学習活動①の予想を出す場面では、「わからない」「何て書けばいいんだろう」「調べてもいいのかな」というつぶやきがたくさんあり、児童が予想を立てられず困った様子が見て取れた。既習事項から考えられるように壁の掲示を参考にしよう促したが、予想を立てるヒントにはならなかった。その中でも「法律を作ったのでは。」と考えた児童がおり、数人の児童がその考えに賛同した。資料集を開き、「武家諸法度」と答える児童もいた。児童は早く調べ活動に取り組みたい様子だったが、教師が主導して「江戸幕府が武士、農民に対して何をしたんだろう?」と聞き、年表を見て調べる活動に入った。

学習活動②の年表を見ながら調べることを考える場面では、多くの児童は困惑しながら学習に取り組んでいた。年表を見ながら、武士、農民、外国と誰に対しての政策なのか資料集を見ながら考えたが、情報量が多くどう書いていいのかわからない様子だった。

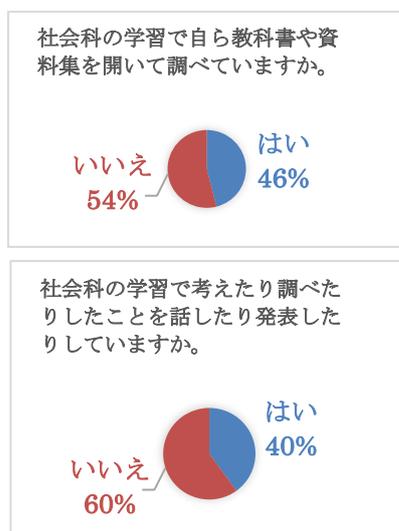
一方で、社会科の資料集や教科書、国語辞典を出してきて必死に調べ考える児童の姿が見られた。

#### (2) 研究テーマに関わる評価

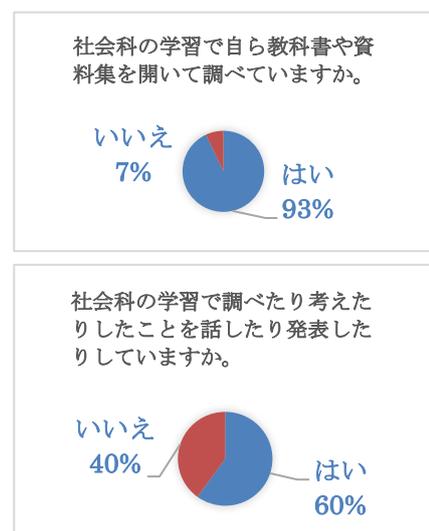
①表1は、6年生児童15人を対象とした社会科の学習についてのアンケート結果である。

表1から、社会科の授業に対する取り組み方の肯定的評価の数値が上昇していることが分かる。特に「社会科の学習で、自ら教科書や資料集を開いて調べていますか。」の質問で、単元終了後の回答で「はい」と答えた児童の人数が7人から14人へと大きく増えた。

表1 単元開始時



単元終了後



これは、単元を貫く問いを立て、その後に学習計画を立てたことで、「何を調べればよいか」が児童にとって明確になり、「自ら教科書や資料集で調べる活動」に結びついたと考えられる。「社会科の学習で考えたり調べたりしたことを話したり発表したりする活動」については、少し向上した。調べたことをもとに伝え合っている様子は見られたが、それらを関連付けて考えている児童は数人であった。

②「社会科の学習で、単元の最初に単元を貫く問いを作ったり計画を立てたりすることは、その後の学習にどうつながったか。」の質問では、次のような回答が得られた。

	肯定的評価	否定的評価
問いをつくる活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いをつくることで、その時代が一番考えるべきことがわかった。</li> </ul>	
予想と計画を立てる活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を立てたから「何を調べれば良いかわからない」ということがなくなった。</li> <li>・予想を立てることで予想や考えの幅が広がり、いろいろなことを考えられるようになった。</li> <li>・予想と計画を立てたことで、社会科の学習が進みやすくなったと思う。</li> <li>・友達の予想を聞いて、気づかなかったことにも気づいた。過去のことからも予想することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想は、何て書けば良いのかわからなくていつも発表できなかった。</li> </ul>
調べ、探究する活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から教科書を開いて自分で調べることができるようになった。</li> <li>・班の人と話し合うことが多くなった。</li> <li>・自分で調べることで、(学習した内容が)頭に入ってくると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない言葉があって調べても理解が追いつかないこともあって大変だった。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習が前よりも好きになった。</li> </ul>	

これらの結果から、本研究テーマである「社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に課題を追究する力の育成」のために行った、単元を貫く問いを設定する活動と学習計画を立てる活動は、効果もあったと考えられる。

### (3) 今後の課題

#### ① 教師のはたらきかけと児童の思考の乖離

今回の実践の効果を感じる一方で、本時の研究授業に関しては、その課題がより明確に現れることとなった。予想を立てる活動では、児童が困惑し、予想を立てる活動そのものが成立しなかった。既習事項を活用して考えることも難しく困っている様子だった。社会的な見方・考え方を働かせる以前のところで思考が止まっている様子であった。つまり、教師のはたらきかけが児童の実態に十分に合っていなかった可能性がある。

協議会でもその点が議題に上がった。「そもそも“江戸幕府はどんな政策を行ったのか”という単元を貫く問いが児童の言葉から出てきたものではない。児童の言葉を生かした問いにしたら良かったのではないか。」という意見が出た。前時の最後に単元を貫く問いを立てる際、「徳川さんは何をしたのか。」という言葉が児童から出た。それを教師が書き直した。その点が、反省点である。教科書的な表現ではなく、児童から出た素朴な表現の方が児童にとっては考えやすかったのではないだろうかと考える。他にも「“政策”という言葉自体が難しく児童が想像できなかったのではないか。」という意見も出た。児童の言葉を書き直すのではなく、副題のようにして書いたり学習が進んでいく中で「幕府」「政策」という言葉に変えていったりすると、児童の思考と教師が学ばせたいことにズレが生じなかったように思う。

## ② 推測する力の向上と既習内容の理解

本単元の次の「江戸の文化」「明治時代の発展」について学習する単元では、困った様子もなく予想が児童から出てきた。その要因として“推測する力の向上”と“既習内容の理解”が考えられる。

本実践で取り組んだ、単元を貫く問いを立てる→予想と計画を立てる→調べ共有する→知識の活用をするという学びのサイクルを毎単元繰り返して行うことで、その学習に少しずつ慣れ、推測する力がついていったのではないかと考える。また、授業の中でも前の時代と比べたり前の時代に戻ったりすることを何度も行うことで、それまでの時代がどんな時代なのか現在学習している時代と比較しながらイメージすることができたと考えられる。そのことが既習を生かして予想を立てる活動につながったのではないだろうか。

たとえば、「どうして明治時代に入り、生活が発展したのか」について予想を立てる際、「洋服を着たり、汽車が通ったり発展したのは、外国が影響している」「遣唐使のときもそうだけど、新しいものは外国から入ってくる」といったように、既習事項を活用して予想を立てていた。予想や学習計画を立てるには、歴史上の事象一つを追うのではなく、その時代の様子を児童が想像して、初めて成立すると感じた。そして、そのことが社会的な見方や考え方を働かせることにつながっていくと考えられる。

これらのことを念頭におき、授業を実践していく必要がある。

### 〈引用・参考文献〉

文部科学省, 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編, 2018

樋口万太郎, 子どもの問いからはじまる授業!, 学陽書房, 2020

横田富信, 社会科が得意な先生・子どもも、苦手な先生・子どもも、授業がおもしろくてたまらなくなる本, 東洋館出版社, 2022